

会 長 挨 拶

滝田 和彦（経営工学部門）

略歴：センター理事（S 49～H 10）
支部会計監事（H 11～H 14）

有難うございました

6月24日、東京都港区の虎ノ門パストラルで行われました日本技術士会総会におきまして、会長表彰を受賞させていただきました。有難うございました。推薦をいただきました北海道支部の皆様には厚く御礼申し上げます。

振り返りますと、昭和40年頃、当時の技術士会北海道支部の理事で活躍されておられた藤田茂先輩（北ガス勤務、第一回技術士試験（化学部門）合格者）から受験するように勧められ、昭和42年、受験したところ思いもよらず合格し、昭和43年に事務所を開かせていただきました。北ガス勤務の忙しきのなかで、センター、支部にもさしたる貢献も出来ずにすごして参りました。仕事柄、環境問題に興味がありISO14000関係の推進等に多少お役にたてたかな、と当時を懐かしく思い出します。

近頃は技術交流研究会の皆様と、和気あいあいの中で、私の専門外の部門の技術についても知ることも出来ますし、議論も出来ます。技術士としての、社会的なレベルアップを皆さんと模索しながら今後とも努力したいと思っています。有難うございました。

市村 一志（建設部門）

略歴：日韓技術士会議実行委員会委員（H 7～現在）
リージョナルステイト研究会会長（H 13～現在）
北海道支部理事（H 13～H 16）
東京監査技術士センター会員（H 15～現在）
北海道支部監査（H 17～現在）

表彰状をいただいて

2005年6月24日に(株)日本技術士会の総会の場において会長より、「北海道の活動を通して本会の発展に貢献した」ということで表彰状をいただきました。北海道の技術士の皆様に推薦していただいたお陰と、この紙面をお借りしまして感謝申し上げます。

私にとって技術士会は、自分を表現でき、新しい発見と能力を高めるための場と捉えています。様々な機会を与えていただいていると共に、広く意見をいただいていること、あらためてお礼を申し上げます。

ここ10年間、「持続可能な地域社会」とは何か、どのようなシステムが必要か、新しい技術の開発と共に実用化を進めてきました。積雪寒冷地としての北海道を念頭に、地域の特色を生かした、持続可能なエネルギー社会の構成を特に検討してきました。今後とも、北海道における自然エネルギー活用と来るべき水素社会の将来像を、検討していきたいと考えています。



滝田和彦技術士（左）と市村一志技術士（右）